



開催にあたって

宮城・山形両県では、個性的で魅力あるふるさとづくりの一環として、総合的な観光振興を進めており、観光レクリエーション施設、文化財及び自然公園等の観光資源の有効活用を図るための各種キャンペーン活動やインターネットによる情報提供等の施策を展開しているところです。

近年、温泉地は、景気低迷や団体旅行から個人旅行へのシフト及び観光需要の個性化・多様化の影響を受け、観光客が減少している現状にあります。

この度、本協議会では国土交通省所管の「平成14年度地域連携支援ソフト事業」の採択を受けて、宮城・山形両県の隣接する温泉地を核とした新たな広域観光エリアの形成を図るための「スリーライン・ツイン・ホットスプリングス構想シンポジウム」を行い、地域間交流の促進と温泉地域の活性化、観光産業の振興を進めてまいることとなりました。

今回のシンポジウムが、皆様方の熱意ある御参加により、県境を越えた新たな「地域観光エリア」の形成と「地域活性化」の契機となることを御期待申し上げます。

国土交通省
宮城・山形観光推進協議会

PROGRAM

13:30～13:35

挨拶

- 主催者挨拶：国土交通省 国土計画局 特別調整課長 **高橋 洋一**
- 開催地挨拶：鳴子町長 **高橋 勇次郎 氏**

13:35～14:35

基調講演 (60分)

- 演題「地域活性化のモデルプランと2次交通整備の課題について」
- JTB東日本エース事業部企画2課 企画担当課長 **酒井 良文 氏**

14:35～14:45

休憩 (10分)

14:45～15:45

パネルディスカッション (60分)

テーマ「県境・行政の壁を越えた“広域温泉郷”とは」

宮城・山形の県境をまたぐ3ルート沿いには、豊かな自然と歴史・文化や名湯が点在していますが、行政区分も異なることから温泉地間の交流や連携は進展しておらず、個々の温泉地がそれぞれ観光客誘致活動を展開しています。

パネルディスカッションでは、それぞれの温泉地を取り巻く環境や地域での活動などを通じて、宮城・山形両県の温泉地間の連携の可能性を模索し、新たな「東西軸観光ルート」の形成を見据えた話し合いを行います。

基調講演

■ JTB東日本エース事業部企画2課 企画担当課長 **酒井 良文 氏**

Profile 酒井 良文

1988年入社。支店団体旅行の営業担当、メディア販売の国内・海外の企画商品の造成を担当を経て現在、東日本エース事業部にて、本州・四国の個人型商品の企画造成の企画担当課長となる。山形県米沢市の小野川温泉「湯あみ旅情」をはじめとした、JR東日本との共同プロジェクト商品「感動発掘プロジェクト」も担当。他にも、企業や地元とのタイアップ企画や、新規商品をてがけている。

旅行業界は景気低迷と市場の変革により、様々な変革を迫られています。マイナスをプラスに転換する為に組織もビジネスのスタイルも変革をして行かなくてはなりません。弊社は「Brand-New JTB 2002」計画により新たな「革新」を目指してまいります。また、熟年市場の拡大とニーズの多様化により個人型商品需要対応がより一層重要となっており、様々な対応が急務となってきました。この様な状況下の中ではかつての「競争相手」から「協力相手」へ共存をかけた取り組みの力をかけ、新たな観光環境コーディネーターが重要です。今回は様々な分析と具体的事例を用いて地域活性化のモデルプランを説明させていただきます。

パネルディスカッション

■ 最上町観光協会 会長 **柴田 真利 氏**【山形県】

赤倉温泉「わらべ唄の宿湯の原」代表取締役。最上町国際交流協会副会長、赤倉温泉旅館組合副会長も務める。国道47号線の改良や迂回路の整備、JR陸羽東線湯けむりラインとしてのイメージアップと沿線にある温泉との連携によるイベントや事業の展開を進めている。

■ 鳴子まちづくり株式会社 取締役総務部長 **吉田 惇一 氏**【宮城県】

東京での会社勤務後、故郷の鳴子に帰り、和zakkaの店「ぬちごや」を経営。その傍ら、「鳴子まちづくり(株)」取締役総務部長、「鳴子町観光協会」常任理事として、鳴子温泉の温泉街と商店街の活性化に取り組んできた。鳴子温泉では、他の大型温泉街と同様、旅行者のニーズの変化や価格競争の激化などの問題に直面しているが、「鳴子まちづくり(株)」では、共同浴場「早稲田棧敷湯」の開設、宮城大学との調査事業を踏まえて地域資源と商店街が有機的に結びついた「人々をもてなし、人々が回遊する『歩きたくなる湯のまち』づくり」を目指し、積極的な活動を行っている。

■ フリーアナウンサー **田中 裕子 氏**【山形県】

東京女子大学を卒業後、NHKに入局し、「趣味の園芸」「今日の健康」「くらしの経済」等のアナウンサーとして活躍。夫の転勤を機にフリーとなり、NHK大阪、NHK京都、NHK神戸等で番組を担当。昭和53年からは山形に移り住み、地元局のキャスターとして「ニュース番組」「県広報」などさまざまな番組を担当する。短大で講師を務めたかわら英文ガイドブック「山の向こうのもう一つの日本」「美しい山形のお誘い」などの出版や英語による山形紹介ビデオの制作を手がける。現在、東北芸術工科大学評議員、山形県総合政策審議会委員。

■ JTB東日本エース事業部企画2課 企画担当課長 **酒井 良文 氏**【神奈川県】

※基調講演者プロフィールをご参照下さい。

■ (株)東北地域環境研究室 室長 **志賀 秀一 氏**

昭和50年、中央大学経済学部を卒業し、北海道東北開発公庫(現・日本政策投資銀行)入庫。平成元年、(株)山寺風雅の国 常務取締役就任、平成13年2月より現職。調査・研究として「地域振興方策策定調査」(青森県下北郡 東道村)、観光振興方策「地域づくりワークショップ」コーディネーター(新潟県佐渡)、「上山まちづくり塾」塾長(山形県上市市)、古民家再生による交流施設の整備(宮城県岩出山町)、「農業振興における観光の役割を考える懇談会」座長(鳥取県江府町)、著書「魅力では足りない、磁力をつくる」-新時代へ向けての観光を考える- (東北開発研究センター刊)